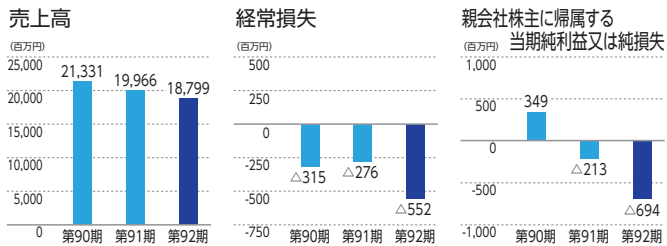




決算ハイライト



自動車部品事業

乗用車、トラック、建機の内外装部品を各メーカーに供給。シート、布、フィルム、塗装等の加飾技術による高付加価値製品の提供。開発・設計から量産までの一貫体制で対応。

売上高 11,655百万円

当事業の国内自動車部門におきましては、中東向け乗用車及びトラック部品が堅調に推移したこと、昨年度受注した、三次元加飾工法やガラス繊維マットプレス新工法による新製品が売上高の増加に寄与し売上高は増加いたしました。海外自動車部門におきましては、タイ子会社であるECHO AUTOPARTS (THAILAND) CO.,LTD.では、当地の自動車生産が回復基調になりつつあるなか受注も堅調で生産高は前年度を上回りました。

この結果、売上高は11,655百万円(前連結会計年度比2.3%増)、セグメント利益は95百万円(前連結会計年度比67.2%減)となりました。



住宅設備・冷機部品事業

キッチン、トイレ、バスなど水周りに活用される洗面化粧キャビネット、浴室キャビネット、洗濯機パン、浴室天井などの樹脂製品を供給。

売上高 6,421百万円

当事業の国内住宅設備部門におきましては、新規着工戸数および住宅リフォーム需要とも低調に推移し、また、物流費、人件費等の上昇が続き、売上および利益とも大幅に減少いたしました。また、海外冷機部品部門におきましては、タイ子会社であるTHAI KODAMA CO.,LTD.、ベトナム子会社であるTHAI KODAMA (VIETNAM) CO.,LTD.は、冷機市場の構造変化等により、また、中国子会社である無錫普拉那塑膠有限公司では、現地における競争の激化により苦戦を強いられ、売上高は減少いたしました。

この結果、売上高は6,421百万円(前連結会計年度比16.6%減)、セグメント利益は4百万円(前連結会計年度比98.2%減)となりました。



エンターテインメント&物流資材事業

ゲーム用パッケージ、自動車部品用トレーなどの樹脂製品を供給。

売上高 722百万円

当事業におきましては、映像用ソフトパッケージ及びゲームソフトケースは、前年比若干の減少でありましたが、車両部品用物流資材の販売終了により売上高は減少いたしました。

この結果、売上高は722百万円(前連結会計年度比17.9%減)、セグメント利益は30百万円(前連結会計年度比36.7%減)となりました。

会社概要・株式情報

会社概要 2019年3月31日現在

商号 児玉化学工業株式会社
 (英文名) KODAMA CHEMICAL INDUSTRY CO.,LTD.
 設立 1946年3月8日
 資本金 33億43百万円

役員 2019年6月26日現在

代表取締役社長 斎木 均 社外取締役 遠藤 健二
 代表取締役 坪田 順一 社外取締役 横路 明夫
 取締役 齋藤 義一 社外取締役 森本 雄二
 取締役 黒沢 清和

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
同連絡先	同上
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.kodama-chemical.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

株式に関するマイナンバー制度のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きが必要となります。このため、株主様からお取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

WEBサイトのご案内

当社ホームページでは、企業情報や最新のIR情報など、幅広い情報を提供しております。

<http://www.kodama-chemical.co.jp/>

児玉化学工業

検索



BUSINESS REPORT

第92期 ビジネスレポート

2018年4月1日～2019年3月31日

■ 社長インタビュー

○ごあいさつ

不退職の決意で
事業再建に邁進いたします。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに当社第92期(2018年4月1日~2019年3月31日)の取り組みについてご報告申し上げます。

当社は、2016年度を初年度とする中期経営計画の3年目を迎えました。海外においては、自動車需要が戻りつつあるタイ、底堅い需要のあるベトナムでほぼ計画通りに推移しましたが、経済が減速している中国事業は販売が低迷しました。

国内においては、住宅設備・冷機部品事業で新規住宅着工戸数ならびにリフォーム需要が振るわず、加えて主要販売先のBCP(災害時の事業継続計画)政策による販売減、新規受注の低迷により、同分野の売上は想定以上に減少しました。コスト削減施策を順次実施したものの、売上減少による影響を解消するには至りませんでした。自動車部品事業では、新規に立ち上がった三次元加飾工法やガラス繊維マットプレス新工法ならびに既存工法での新製品も売上増加に寄与しました。しかしながら第2四半期に発生した工場設備の故障とその後の納期対応で労務費用、外部倉庫借入れ等の追加費用がかさみ、その後も改善を進めたものの通期では売上高の増加に見合う利益の計上ができませんでした。

このような状況を踏まえ、主に国内事業を再建するため外部コンサルタントを招聘し、現状分析とその対策を練り、2019年を初年度とする3カ年再建中期計画を作成し、事業構造の抜本改革に着手いたしました。

今後の見通しにつきましては、米中貿易摩擦や中国経済の減速懸念等不透明性が高まっており、消費税率引き上げの影響や原材料価格・為替動向等の不確定要素もあるため景気の先行きを見通しにくい状況にあります。当社としてはこうした環境の変化等に迅速かつ柔軟に対応し、再建中期計画の達成を急いでまいります。なお、今期の業績見通しとしましては、売上高177億円、営業利益3億円、経常利益1億7千万円、当期純利益5千万円を見込んでいます。株主の皆様には、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

2019年6月
代表取締役社長
齋木 均



Q1 経営の立て直しが急務となっています。新社長の今の心境からお聞かせください。

昨年11月に業績予想の修正を発表しましたが、その後も業績は思うように回復できませんでした。全役員が責任を取るべきとの声がある中で、再建中期計画に精通した誰かが残り、新役員と共に改革を実行せざるを得ないということで、私とその任に就くことになりました。今はひたすら事業の構造改革を進め、不退職の決意で業績回復に努めてまいります。

Q2 回復への期待が大きかっただけに想定外とものつるのですが、どのあたりに齟齬が生じたのでしょうか。

昨年、懸案であった自動車部品事業におけるインドネシア事業からの撤退を行い、今後はものづくりの構造改革を進め、収益力の強化にひた走る計画でした。しかしながら住宅設備・冷機部品事業で主要販売先の災害時に備えた2社購買体制への移行により、西日本の売上が削げ落ちたのに続き、国内の自動車部品事業で発生した工場機械の故障による予期せぬ費用が発生し、売上高の増加に見合う利益計上が思うに任せぬ状況となりました。前中期経営計画の策定時には想定していなかった不測の事態とはいえ、「投資・撤退等の経営意思の決定・事業管理の甘さ」、「生産分野におけるリスク管理の不徹底」が原因であり、株主様のご期待に沿うことができなかったことをここに深くお詫び申し上げます。

幸いにも自動車部品事業では、一昨年にトヨタ自動車(株)の最高級車レクサスLSの後部座席構造材にガラス繊維マットプレス新工法が採用されたほか、昨年も三菱自動車(株)の新型デリカD:5に三次元加飾工法の採用が決まりました。この2つの新工法をテコにして、自動車部品事業の強化を図ります。自動車部品の製造は、西湘工場(小田原市)に加え、従来は住宅設備・冷機部品の製造を担ってきた埼玉工場(本市)でも行います。お取引のある自動車関連企業が北関東に製造拠点を設けており、サプライチェーンの観点からも強みとなりそうです。

Q3 新たな中期経営計画も発表されました。どのような改革を描いていますか。

3つに絞ってお話しますと1つめは、「事業ポートフォリオ改革」です。販売製品の採算性を見極めを徹底し、縮小する住宅設備・冷機部品事業から好調な自動車部品事業へ経営資源の大胆なシフトを行い、人員や設備などの経営資源を重点的に投入するものとします。

2つめは、「自動車部品事業での生産安定化および販売拡大」です。住宅設備・冷機部品事業の余剰リソースを自動車部品事業へシフトし、有効活用することで生産体制の安定化を図ります。当社の強みである三次元加飾工法やガラス繊維マットプレス新工法による新成形技術を使い、成形から加工までの一貫生産に磨きを掛けるとともに、自動車関連企業が集まる北関東の地理的優位性を活かした拡販を図ります。

3つめは、「聖域なきコスト削減と経営・組織力強化」です。経営責任を明確化するとともに、生産部門のみならず、本社間接部門のコスト、役員報酬・役員数の削減を実施します。組織の改廃と簡素化により業務を効率化し、徹底的なモニタリングにより計画の確実な実現を図ります。



これにより最終年度となる2022年3月期には連結売上高で184億円、営業利益で11億円を目指します。

Q4 海外事業は概ね順調のようですが、今後の見通しはいかがですか。

タイ子会社である ECHO AUTOPARTS (THAILAND) CO.,LTD.でも、ガラス繊維マットプレス工法によって製造されたバッテリーが日系自動車メーカーに採用され、今後の受注も獲得するなど、更なる生産拡大が見込まれます。また、中東向け乗用車部品およびトラック部品も堅調に推移しています。

海外冷機部品部門においては、タイのTHAI KODAMA CO.,LTD.およびベトナムのTHAI KODAMA (VIETNAM) CO.,LTD.では概ね順調に推移しています。このほどTHAI KODAMAが開発を進めていたタイ国内セブンイレブン(株)向けコーヒークップおよび冷飲料水Bigカップの受注を獲得しました。

しかし中国子会社である無錫普拉那塑膠有限公司は、米中貿易摩擦の影響に加えて、競合との競争激化により苦戦を強いられています。経営判断を迫られるかもしれません。

Q5 次の飛躍に向けた決意をお聞かせください。

足元の再建中期計画に沿って、一步一步着実に歩みを進め、成果に繋げなければなりません。

現在自動車業界では「100年に一度の大変革」が進んでいますが、自動車の環境性能や燃費の向上による軽量化が喫緊の課題となっています。当社のガラス繊維マットプレス新工法がレクサスLSの後部座席に金属代替部材として採用されたのは、まさにそうした動きの一環です。今後もこうした高付加価値のある製品を足掛かりに売上を伸ばし、売上に見合った利益を出していかなければと決意を新たにしています。

株主の皆様には引き続き児玉化学工業に温かいご支援を賜りますよう心よりごお願い申し上げます。